

姫路城の歴史

- 1333—鎌倉幕府（1185-1333）の倒幕につながる戦が勃発し、赤松則村（1277-1350）が丘の上に後の姫路城となる一時的な砦を築く。
- 1346—則村の息子の貞範がこの場所により大きく本格的な城を築く。
- 1545—黒田氏が姫路城を任される。
- 1546—黒田官兵衛（1546-1604）が姫路城で誕生。彼は後に「天下統一」で知られる豊臣秀吉（1537-1598）の重要な補佐官になる。
- 1580—秀吉が姫路を支配し、姫路は秀吉の西日本支配下の拠点となる。
- 1581—秀吉は三重天守の建築を命じる
- 1583—秀吉は大阪城に移り、姫路の支配権を弟の秀長（1540-1591）に譲る。
- 1585—秀吉の義兄木下家定（1543-1608）が姫路に入封。
- 1600—秀吉の死後、徳川家康（1543-1616）は関ヶ原の戦い（1600）に勝利し、事実上の後継者となる。彼は彼の義理の息子であり近習であった池田輝政（1565-1613）を姫路城主に任命。
- 1601—池田輝政が現在の姫路城の建設を開始。
- 1609—天守閣とそれに付随する 3 つの小天守が完成。
- 1617—本多氏が輝政の息子である池田利隆（1584-1616）の死後、入封。
- 1618—本多忠政（1575-1613）が西の丸の建設を開始。
- 1639—松平氏が新しい城主となる。
- 1649—榊原氏が松平に代わり入封。次の 100 年間で二つの氏族間で支配権が推移する。
- 1749—酒井忠恭（1710-1772）が入封。酒井氏が 19 世紀の封建時代の終わりまで城を支配する。
- 1867—明治維新により徳川幕府（1603-1868）が終焉し、1871 年に姫路藩は正式に廃止となる。
- 1873—封建時代が終わり、多くの日本の城は取り壊しを命じられるが、姫路は全国 56 の存城の 1 つに加えられる。
- 1910—限定的な修理作業が城で行われる。
- 1931—姫路城天守閣が国宝に指定。
- 1934—姫路城築城以来、初の全面改修が開始（昭和の大修理）

1945—姫路市の大部分はアメリカの空襲で破壊されたが、城はほとんど無傷で残る。

1950—戦時中に中断されていた改修工事が再開。

1956—大天守修理のための完全な解体が始まり、工事が 9 年間続く。

1993—姫路城が世界文化遺産に登録される

2009—主要な修復工事が開始。（平成の大修理）

2015—平成の大修理工事が完了。